

# 1 自己評価及び第三者評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893600193		
法人名	株式会社あつる		
事業所名	あつるグループホームみつ		
所在地	兵庫県たつの市御津町釜屋313番地3		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	平成30年4月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年にオープンした新しい施設です。利用者様にはご自宅と同じように自由に安心して過ごしていただいております。毎月の外出や外食の行事は皆さんとても楽しみにされておられます。季節に応じた行事を取り入れ皆さん仲良く過ごされておられます。職員も利用者様、家族様の声を聞きながら、信頼関係を築いております。またご家族、ご兄弟がいつでも気軽に来訪されたり、時には外出されるなど昔からのつながりも大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	平成29年新設により、情報公表前
----------	------------------

## 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設以来1年を経過したばかりである。事務所には法人理念と社訓が掲示され、職員みんなで創り上げた事業所独自の理念が玄関や職員の目に届く場所、パンフレットに掲載されている。職員は業務ミーティングを通じて理念を共有し、日々の実践に取り組んでいる。5項目ある理念の中で現在、特に「笑顔・感謝・情熱を持って対応」、「一人ひとりが楽しみ・役割・日課を持ち、安心して自立した生活が送れるよう支援」を重点的に実践している。自治会に加入して自治会行事にも積極的に参加し、保育園との交流、トライやるウィークやボランティアの受け入れが行われ地域との繋がりを築くように努めておられる。事業所の広い居間を活用して併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同行事を開催するなどの交流も行われており、今後の活動とケアへの取り組みに大いに期待が持てる。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成30年3月27日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念は玄関、職員の目の届く範囲に掲示しています。 パンフレットにも掲載し、施設見学者にも事業理念がせつめいできるようにしております。	法人理念とは別に、事業所独自の理念を開業前に職員が作成した。玄関に掲示するとともに、パンフレットにも記されている。特に、理念の中の「笑顔・感謝・情熱をもって対応します」については、月1回の業務ミーティングの中で意識づけをしている。また「馴染のある自然とのふれあいを大切にします」という理念を基に外出計画などを企画している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパー、病院を利用しています。 トライやるウィークの受入れも行っております。	事業所が開催した夏祭りに保育園が参加したり、中学生のトライやるウィークの受け入れを行った。歌、和太鼓、フラダンスなどのボランティアの訪問が月1回程度ある。また、自治会に加入しており、地域の清掃活動には、同敷地内にある小規模多機能型居宅介護事業所と交互に参加している。地域の防災訓練や自治会の会合への出席なども、自治会より情報提供があったが、参加出来ていないため、今後は地域密着型サービスとして、より積極的な参加が求められる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員はオレンジリングを取得し、日々理解し取組んでおります。 施設の見学は自由に行っていただいております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度地域推進会議を開催しています。毎回写真付の報告書で取組み、状況報告を行っております。意見の交換を行いサービス向上に努めています。	基本的なメンバーは、家族、地域包括支援センター、提携の訪問看護ステーション、自治会役員、民生委員、職員となっており、2ヶ月に1回開催されている。運営状況や活動状況の報告の他、意見交換の場となっている。現在まで3家族の参加があった。今後は、より多くの家族の参加を促すため、開催日や声かけの工夫が望まれる。また、第三者評価の結果についても議題にし、情報共有して頂きたい。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域推進会議で地域包括支援センターの方と情報交換を行っております。</p>	<p>開設当初は、事業所について知ってもらうため、パンフレットを置いてくることもあった。現在は、たつの市の地域ケア会議に毎月参加しており、その際に、事業所の現状を報告している。地域包括支援センターとは、運営推進会議で情報交換しているほか、困難事例などがあれば相談する。また、今後たつの市のグループホーム連絡会に参加する予定である。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員の定例研修会で知識の向上を図っています。居室など施錠せず、自由に行き来できるようにしています。</p>	<p>虐待防止とともに、研修を行った。欠席者には研修実施記録の回覧を行い、職員全員に周知している。また、マニュアルも備えている。身体拘束の事例は、開設から1例もなく、玄関も日中は開放している。今後は、重度化に伴い身体拘束をせざるを得ない状況になった場合でも、なるべく拘束に至らないようなケアについて、職員間で共有していく予定である。</p>	
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員の定例研修で高齢者虐待について学ぶ機会を設けております。職員においても社内の衛生委員会主催のストレス度チェックなどを行い職員のストレスにも目を配っております。</p>	<p>上記、身体拘束と共に、研修を実施している。日常的なケアの場面では、管理者が注意を払い、業務ミーティング内で不適切な支援がなかったか、確認している。また、職員のストレスにも気を配り、夜勤明けには個別に職員に声かけすることもある。法人全体では、衛生委員によるストレスチェックを行っている。</p>	
8	(7)	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員の定例研修で権利擁護について学ぶ機会を設けております。必要時には活用できるよう、知識の習得を行っております。</p>	<p>成年後見制度も、日常生活自立支援事業も現在利用者はいない。定例研修の中で、4月に研修を行った。また、家族への情報提供用として、パンフレットは設置している。管理者が家族から聞いて、地域包括支援センターにつながることになっている。</p>	
9	(8)	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は契約書、重要事項説明書を用いて個人情報保護、報酬、加算、解約についてもご本人、ご家族様に分かりやすく説明し納得した上で同意欄に署名、押印していただいております。</p>	<p>見学等の対応は管理者が行っている。契約時に、わかりやすく、詳しく説明している。重度化、看取りに関する方針については口頭で説明をしている。また、契約時ではないが、タイミングを考慮しながら、医療連携体制への要望書について説明し、署名を頂いている。</p>	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会の取組みとして利用者アンケートを実施しサービスの向上につとめております。家族が面会に来られた時には近況を報告を行っております。	運営推進会議の中で、意見や要望を聞いている。また、当事業所では、毎月小遣いを精算しに家族が来訪することになっており、その際に、気になることや行事への希望などを聞いている。利用者へは食事に関する嗜好アンケートを行った。今後は、運営推進会議だけでなく、家族会の設立など、より利用者や家族の意見が表明出来る機会を増やす工夫に期待したい。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを行っております。職員からの意見や提案を聞く機会を設けております。	月1回の業務ミーティングの中で、運営について意見を聞いている。開設一年目で試行錯誤のところもあり、運営に関しても職員から意見が出ることが多い。事業所内で解決できる課題については、出来る限り反映している。また法人として取り組みが必要な要望は、管理者が法人本部での会議で報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働契約更新時には、個々に面談を行っております。個々の状況に応じて勤務変更を行うなどし、やりがいを感じて働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップにつながるよう、研修会への参加を積極的に行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後たつの市のグループホーム連絡会に参加する予定である。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時や契約時からご本人や家族様のはなしを傾聴しコミュニケーションを図り安心していただけるように努めています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時から家族様の意向、思い、要望をお聞きしています。 不安や困っている事等の情報収集も行いながらニーズに合った支援が出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や契約時から必要とされている支援は何かを見極めて判断しております。 また、初期段階においては、ご家族様の協力をお願いし、利用者様が不安にならないように協力をお願いしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のこれまでの生活暦を理解し、目的を明確にし達成感を 感じてもらうような役割を提供しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外泊、外出は自由に出来るようにしています。 毎月1回は面会していただけるようにお小遣い精算制度をとらせていただいております。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人とも自由に面会していただいております。	馴染みの人や場所については、初回のアセスメント時や日々のケアの中で聞いている。友人や知人が来訪されることも多い。近所の方は自転車によく来られる。 また、利用者から聞き取りした内容を、家族に伝え、家族の協力のもと、美容院や買い物、外食など、馴染みの場所に行かれている。今後は、利用者から聞き取りした内容を、職員間でより共有できる仕組みづくりの工夫が望まれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	後片付け、掃除、花の世話などそれぞれの役割を生かし協力しながら出来ることを明確にし、利用者様同士が協力し支えあえるように支援しています。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもその先の生活が安心して送れるように各関係者にこれまでの生活習慣やケアの工夫等の情報を家族の同意を得て提供します。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族様からの聞き取りを丁寧に行っております。 ご本人との日常的なかかわりの中での会話や表情からの気づきも大切にしております。	初期のアセスメントや、日常的なケアの中で、聞き取りを行っている。アセスメント時に作成する基本情報や申し送りノート、経過記録で、聞き取りした内容を共有している。趣味や得意なこと、新たな気づきは、月1回の業務ミーティングでも共有している。年1回もしくは、更新月に再アセスメントを行い、基本情報を更新するとともに、職員間で共有することになっている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境はご本人、ご家族様からお聞きし基本情報にも記入していただき、これからの暮らしにも活用させていただいております。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はご本人の行動パターンを大切に 行っております。 出来ること、出来ないことを把握し出来ることを行 うよう努めております。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見、考えを反映した介護計画を作成し、職員間で共有し話し合いを行っております 半年に一度の計画の見直しを行い、現状に即した介護計画の作成、同意情報共有を行っております。	モニタリングは3ヶ月に1回、計画の見直しは半年から1年の間隔で行っている。状態変化があれば、適宜見直しも行っている。計画の見直し前に、本人も含めて、職員、計画作成担当、家族と担当者会議を行っている。今後は、訪問看護や主治医など、多職種からの意見も介護計画に反映することを期待したい。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や生活の中で気づいた事項を記録し、ご家族様に情報提供できるようにしております。月1回の報告は行っております。介護計画の見直しに必要なことは話し合いを行っております。		

自己 者 第三	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は介護保険サービス外のサービスを必要とされる方や希望される方はおられませんが、その時々ニーズに対応していく方向です。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーの買い物や、近隣を散歩、ドライブ、外食を行い、地域資源を活用しております。イベント時には近隣の保育園児をご招待し、一緒に楽しんでいただいております。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人や家族様の希望をお聞きし、家族様の協力によりかかりつけ医を受診していただいております。職員の付き添い時は施設での近況報告もさせていただきます。	事業所の協力医もいるが、従来からの主治医を選択される利用者がほとんどである。基本的に家族が通院介助をしており、状態の報告や受診結果は、家族を通して口頭で行っている。家族による通院が難しい場合は職員が同行することもある。協力医療機関への受診は職員が行っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に変化があった場合は、訪問看護ステーション、協力医に相談しています。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者様に関しては医療機関への情報提供を行っております。	入院時は、家族に連絡をとり、管理者か職員が病院に同行し、病院へ入院情報提供書を提出している。お見舞いに行き様子伺ったり、リハビリを見学させていただくこともある。地域連携室とも連絡を取り、退院時カンファレンスにも参加する。退院の際には、病院より看護サマリーをもらっている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて説明を行い、共有認識をしています。 訪問看護ステーションと連携し、ご利用者、ご家族に安心していただける体制をとっています。	事業所として、重度化や看取りについても対応する方針であり、書類等の整備を始めたところである。看取りのマニュアルは備えており、職員への研修は今後行う予定である。本人、家族とは状況を見ながら「医療連携体制への要望書」を頂いている。訪問看護ステーションによる週1回の訪問の他、24時間オンコールの対応となっており、将来の重度化や終末期に備えている。	事業所として看取り指針や看取り介護の計画書等の書類整備、主治医や訪問看護とのより密接な連携、利用者・家族と早い段階から繰り返し希望や要望を聞く仕組み、看取り前後の研修等、重度化や終末期に向けた体制の整備を進めて頂きたい。また、緊急搬送や延命治療についても検討されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の定例研修会で緊急時対応の機会を設けています。 AEDの勉強会も行っております。 緊急時の応援体制は隣接の多機能とともっております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	三ヶ月に一度の避難訓練を行っております。 年に一度は消防署の立会いも行っております。 自治会、近隣住民の方にも緊急時の応援依頼を行っております 避難場所、避難経路について確認を行っております。	年4回、昼夜想定で避難訓練を行っており、そのうち1回は消防署も立ちあっている。自治会や近隣住民へは、運営推進会議の中で伝え、協力も要請している。今後は、地震や風水害が発生した際に備え、自治会と避難経路を確認する予定である。備蓄についてはこれから準備する予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員定例研修でプライバシー保護について学ぶ機会をもっております。 一人一人に応じた声かけ、特に入浴時、トイレ時においてはプライバシーを尊重した対応、声かけを心がけて接しています。	法人の倫理規定に基づき、接遇研修を行っており、その中で誇りやプライバシーを尊重した対応について学んでいる。日々のケアの中では、特に入浴や排泄の場面で、利用者ができることはなるべくして頂き、職員が先走って援助しないよう気を配っている。また業務ミーティングの中で、不適切な声かけがなかったか話し合い、職員が共通した声かけや対応ができるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や自己決定が聞きだせるように声かけ、お話をしております。 日々行っている創作、問題集、塗り絵などもお聞きし希望がかなえられるように取り組んでおります。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活のペースを把握し、無理強いせずその方のペースに合った支援を行っております。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は自身で選択していただいております。訪問利用も本人の意向を大切にしております。(毛染めなど)行きつけの美容院には家族様と一緒にいられる利用者様もおられます。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新鮮な食材で手作りをしております。家庭菜園で採れた野菜なども使用して楽しみの一つとしています。時には外食も行い、楽しく食事をいただいております。	外部業者が献立表を作成し、食材も業者から購入して事業所職員が交代で毎日3回の食事作りを行っている。時には利用者の希望を献立に反映している。利用者の自立度は比較的高くきざみ食の方はおられない。毎月のおやつ作りの折には利用者は職員と一緒に調理し、食事作りを楽しんでいる。事業所の菜園で職員と利用者が一緒に収穫したじゃがいもやねぎ等の野菜が食材として調理されることもある。開設当初は、利用者が職員と一緒に調理、盛り付け、配膳・片づけ、食器洗い等の一連の作業にその持てる力に応じて参加していたが、現在は食事作りの一連の作業への参加は見られない。昼食時、1人の職員は検食し残りの職員は利用者とは別のテーブルで利用者の食事を見守りながら持参の弁当を食べていた。	食事は一日の生活の中で五感刺激、力の発揮、関係づくりの面で最も重要な部分を占めている。今ある課題を改善して利用者が職員と一緒に食事作りに参加し、一連の作業を通じて、食事を楽しむことができる取り組みを期待したい。
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を作り提供しております。個々の状態で食事摂取量や水分摂取量を調整しております。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っております。声かけによって自主的に行われておられます。口腔内が清潔に保たれているか、必要に応じて確認をさせていただいております。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、トイレでの排泄が出来るように努めています。 利用者様の様子を把握し職員が声かけを行い誘導を行っております。	利用者の自立度は比較的高く、リハビリパンツ、布パンツを着用されている方だけであり、ポータブルトイレの利用者もおられない。利用者一人ひとりの排泄リズムと習慣を把握して、その人に応じて声掛け、トイレ誘導、介助等の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らないよう、普段からヨーグルト、R-1を定期的に摂取していただいております。また適度な運動、歩行訓練を毎日行い自然な排便が出来るように支援しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意向、希望に合わせております 個々に合った支援をしています。	利用者は週2~3回、希望に応じて午前、午後の入浴を楽しんでいる。同性介助が行われており、季節湯や入浴剤の使用は行われていない。利用者の自立度が比較的高いため、現在、浴室にはリフトは設置されていない。入浴拒否の方が数名おられるが、時間をおいて再度入浴を勧めるなどの工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように適度な運動、休息を行っております。 不安で眠れないときは、職員がお話し、安心感を与えゆっくりと休んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員が服薬の管理を行い、服薬ミスがないように、呼名確認、カルテにチェックを行っております。受診時には医師に情報提供を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の趣味や嗜好をお聞きし、出来る範囲内で日常生活を行う上で明るく、楽しく過ごしていただけるよう努めています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、花見、買い物など季節に合わせた外出行事を行っております。 本人の好みなどをお聞きし外食を行っております。 天候の良い日には近所を散歩しております。	週に1回程度、近隣の川沿い周辺を散歩したり、行事委員会が企画した外出計画に沿って毎月、喫茶店、梅公園、姫路城等に出かけたり、回転すし店、新舞子での外食、富島神社への初詣や馬場のコスモス見学等、季節に応じた外出支援が行われている。	寒暖の厳しい季節等を除いて、気分転換や五感刺激、夜間熟睡のためにも散歩を初め戸外へ出る機会を増やす取り組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月月末、月初にはご家族様の面会時にお小遣いをお預かりしております。 また、購入した買い物はレシートをお渡ししております。 お金を使う楽しみ、大切さを支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や友人様からの電話は24時間取り次いでおります。 希望によって葉書を購入し、葉書を出されています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有リビングには天窓が2ヶ所あり、日光の自然な光を取り入れています。 また、季節に応じて季節感が味わえる展示物や、思い出の写真コーナーなどをもうけ居心地の良い空間を提供出来るようにしております。	玄関、居間、廊下、台所、トイレ、浴室ともに共用空間は広くゆったりとして清潔であり、明るさ、温湿度、音、においては適切に管理されて利用者にとって居心地のよい住環境が整えられている。居間は広く天窓からは爽やかな自然の陽光が差し込んでいて、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行事が催される。居間の壁には折り紙のチェーンやチューリップだけでなく書道、ちぎり絵など利用者の作品やレクリエーションの写真が所狭しと飾られ、色彩豊かであり季節感と生活感を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有リビングにはソファを設置し、ゆったりと過ごしながらお話されたり、テレビをご覧になられたりと、憩いの場になっております。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日頃から利用者様が使い慣れた物を持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせるよう環境を整えています。</p>	<p>居室はバルコニーの防水立ち上がりを確保するために窓と床が接していない掃き出し窓になっている。居室は採光がよく、思い出の家族写真や花が飾られ、テレビ、冷蔵庫など本人の好みのものが持ち込まれてその人らしく居心地よく過ごせる環境整備がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立して安全に過ごしていけるよう、トイレ、浴室には手すりを設置し、スペースも広くし「自立」していただける環境づくりを作っております。</p>	/	/